

心ふれあい SA吹田通信 204号

発行 SA吹田 ☎ 06-6388-3380 〒564-0004 吹田市原町3-7-2 小川忠夫 ogawatadaosasuita@yahoo.co.jp
 ホームページ <http://sa-renkyo.sakura.ne.jp/active/suita/index.html>
 プログラム:心ふれあいSA吹田

宣言解除

おもちゃは9月から活動できるか 歌体操の高齢者施設ボランティアは SA吹田の基本的な姿勢

SA吹田は、子どもと高齢者が活動の対象であります。6月1日からの感染対策の条件付きの各会館の使用ではSA吹田の活動は基本的には自粛したいと思っています。条件が外された時期以降に活動を再開する予定としたい。特に子ども相手の活動は無条件の活動が認められるまでは活動は自粛する見込みです。歌体操については、市民塾の塾生だけの自主的な活動は状況を見て活動を再開するが、高齢者相手のボランティア活動については慎重に進めるべきと考えています。おもちゃ学校については状況を見て活動を再開するが、子ども達を集めての活動は夏休みを含めて当分自粛すべきと考えています。国際交流・福祉部の活動は毎年秋以降であるが、小学校の授業日の確保等あるので、活動が組み込まれるのが課題となると思われます。

おもちゃ部会

藤森重治

子どもさん達相手の活動ができない寂しい時期が半年も過ぎてしまい、心ふれあいSA吹田の新しいスタートも閉ざされ残念な日々でした。まだ先の見通しのできない状態で子どもさん達は勉学を優先の中、土曜日も休みが無くなる状況ですが、少しでも楽しい時間を見つけ、物づくりを行ないたい。

子どもさん達相手の活動は無条件の活動が認められるまでは慎重に進めることが勿論ですが、自主的な活動は状況を踏まえ進めたいと思います。またスタッフ養成のおもちゃ学校と部会とは密にして協力し合う活動につなごう。

歌体操部会

梅林素子

新型コロナウイルスによる外出自粛生活が始まりました。混迷状態が続く中で、4月後半からテレワークが実施できるようになりました。まさにピンチはチャンス、皆さんの知恵で新しい生活様式が生まれました。現在は大阪府下の方も含め30名程でパソコン画面に並び、歌体操をしています。久しぶりに皆で顔を見ながら体操をする喜びを感じています。歌体操市民塾ではテレワークに参加されていない方も半数おられます。この方々が公共施設で体操が出来るように考えていかねばなりません。3蜜の回避、消毒、マスク着用の指示に従いながら、出来るだけ早く実現できれば良いと考えています

福祉部会

神保隆之

今年はコロナウイルス感染予防で学校の休校が5月末迄続き正規授業の遅れの為、実施回数が少なくなると思います。高齢者の健康管理関係の講演を企画したいと思います。

国際交流部会

手塚之博

コロナ禍の影響で、留学生も激減、小学校も6月からスタートしたばかりで、今年度の活動は見通しが立たない。このような中、活動資金や部会メンバーの確保を重点に取り組んでいきたい。

特集 今と昔の SA 吹田

最近の 6 年間で大きく変貌

今年度 SA 会員 160 名中 100 名が直近 6 年間に入会

SA 吹田は 30 年前に設立され活動を続けてきました。会員も 28 名からスタートして増減を繰り返し、現在 160 名の会員を擁しています。老人大学(SA 養成講座)時代にはその卒業生はほぼ自動的に SA 吹田に入会するという仕組みがあり、毎年 10~20 名単位で会員が増加していました。平成 16 年大阪府の財政問題で老人大学が閉鎖されてから入会者が激減した時期に、下記のような SA 吹田独自の事業を展開しました。そのため直近 6 年間で 100 名の会員が増加しました。つまり直近に入会された 100 名の会員は SA 吹田の昔の活動については殆ど知らないという実態があります。次のページでその辺の事情を知っていただきたく、要点をまとめて掲載しました。

SA 吹田が行った 2 大事業

おもちゃ学校の開設

平成 26 年おもちゃ部会で「世代間交流おもちゃ学校」を発足させました。前年から受講生を募集し、28 名の受講生を確定して活動に入りました。子どもゆめ基金の助成金 30 万円を得て講師、スタッフ費用や工作の材料代、会場費用等に充当しました。子ども達を募集して子ども工作教室を開催するという構想でスタートしました。毎年、学校を開催し、今年、令和 2 年度まで 6 年間で 166 名が入学しました。卒業生の 55 名が現在 SA 会員としておもちゃ部会で活動しています。おもちゃ学校の運営も最近ではすべておもちゃ学校の卒業生が担当し、今やおもちゃ学校がおもちゃ部会の活動の中心です。



歌体操ボランティア養成講座 吹田市社協と共同で実施

歌体操市民塾が設立され 10 数年が経過しますが、歌体操ボランティア養成講座は平成 26 年から始まり 7 年目を迎え 100 名の修了生を輩出しました。その他の入会者を含めて現在 36 名が SA 吹田会員として活動しています。新しい会員が増加したことにより高齢者施設への歌体操ボランティアの活動も 20 か所におよび活動が活性化しています。



特集 SA 吹田 その流れを振り返る

源流 大阪府老人大学 吹田市に設立 平成元年 SA 養成講座始まる 30年間の活動のあゆみ

SA 吹田の創立と SA 連協の活動

平成元年(30年前)に28名の会員でSA吹田が発足しました。大阪府SA連協は2年後に結成され、初代会長にSA吹田の会長であった池田明義氏が就任された。その後各期の卒業生が毎年入会したが、活動は中々軌道に乗らず、親睦会が主な活動であったようです。SA連協は大阪府の強力な指導があって結成されたが、そもそもSAの活動が確立されておらず、試行錯誤の連続であった模様です。

SA 吹田が活動休止・活動再開

平成14年になって、SA吹田の活動も停滞しその年の総会で活動休止の決議がなされた。SA吹田も解散状態になり、翌年の平成15年に後に第8代会長に就任された丹羽史朗氏によって再建の活動が行われ、78名の会員によって活動が再建されました。

活動の基本が確立された時期

平成17年～平成21年の6年間、第9代会長武内信憲氏・第10代会長の佐藤宏一氏・第11代会長小川忠夫氏によって種々の改革がなされ、SA吹田の活動の基礎が出来上がりました。

大阪府の先導モデル支援事業がSA吹田に認可され、100万円の活動資金によって“心ふれあいネット”の名称で活動を開始しました。従来老人大出身者に限定していた、SA吹田の会員資格を撤廃し一般市民に加入の道を開きました。おもちゃ部会・歌体操部会・国際交流部会・福祉部会の4部会体制が出来上がり活動が定着しました。佐藤宏一氏は大阪府SA連協の理事長に就任し、その後NPOの設立に尽力されNPO法人大阪府高齢者大学校の理事長に就任されその運営手腕を発揮されました。

再度の解散騒動と新しい出発

創立30年記念行事が実施された、令和元年度に会長の後継者不在の事態に陥りSA吹田の解散が役員会で決議されました。内外の関係者・先輩諸氏からの叱責や立て直し要望の声もあり、11代会長の小川忠夫氏が再度会長にと推薦され、SA吹田が継続されることになりました。活動体制刷新やSA吹田通信のメール配信・HP、ブログの充実等改革に取り組みを始めました。世界的な新型コロナウイルス感染拡大で活動が出来ず、数か月皆家で外出自粛に追い込まれました。6月末現在見通しが立ってなくて、先が不透明な時期がつづいています。

会費の納入は、部会の活動が再開された時に納入をお願いします。所属のグループに!!

会員の広場

テーマ:自由(活動・趣味・失敗談・想うこと・何でも可)

おもちゃ部会

新井 憲

おもちゃ学校と卒業生主催の子ども工作の4教室は、今年度の受講生や生徒の登録が済んだところで外出自粛や夢つながり未来館の閉館により、3月からの活動をストップしました。高齢者や子どもが集まっている活動については、今までのやり方は認められず、施設の利用条件に従った上での新しい様式が必要となっています。2月まではテーブルを囲んでワイワイ喋りながら、見せ合い、教え合い、道具も共用で使っておもちゃを作り、出来上がれば皆で遊ぶことが当たり前でした。この先、そのシーンを再現できるようになるまで活動をこのまま自粛し続けることが正解なのか、新しい運営方法を検討することにチャレンジしていくことが正解なのか悩みは続いています。

歌体操部会

佐藤典子

テレワーク歌体操に参加して

外出自粛の4月末「テレワークで歌体操を」のメールを頂いた時パソコンの操作や設定が難しく とても出来ないと思っていました。

「クリックするだけで簡単だから・・・」と声をかけていただき恐る恐る緊張してクリックし 画面が出た時は感激でした今でもつながるまでドキドキ！皆様のお顔が見えるとホッとしますテレワークが体験でき楽しく参加させて頂きありがとうございます

国際交流部会

佐藤宏一

“小学生と外国人との交流授業”

新型コロナウイルスとの共生を果たした上で、今までに、継続してきた活動を続けていきます。留学生・在住外国人を地域の中へ積極的に受け入れていただく中で、異文化体験を広め、多文化共生の地域づくりに繋げていきたいと考えております。

課題としては、

- ① 留学生が、いつ、日本に戻れるか。
- ② 小学生授業が、いつ、正常になるか。
- ③ 私たちの活動が、いつ、正常になるか
- ④ 活動資金の調達

年内は、Web ミーティングなどを、活用してみんなの心が、離れないように交流を図りたい。新たな活動の在り方を、模索しながら楽しくボランティア活動を推進します。

福祉部会

三好桂子

マスクいろいろ

マスクといえば『白』であるという思い込みが、私にはあった。いや、以前は本当にそうであったと思う。その思い込みを見事にくつ返えさせられたのが、今回の『コロナウイルス』である。国内国外の人々が一斉にマスクを着用。赤・ピンク・ブルー・黒などで模様のあるものまで、華々しく登場した。見ていて何とも楽しくなる。

私があれ？と思ったのは。高齢の女性が着用していたマスクであった。白地で右左に大きな丸がついでいた。このデザインを考えた人をあれこれと想像してみた。ゆきついたのはお孫さんであった。

編集後記直近6年間で100名の会員が増加した現状に鑑み、過去のSA吹田の歩みを少し振り返ってみました。活動が休みの今、SA吹田のいろいろをお伝えしようと思っています。課題を掘り起こし今後の活動に生かしたいと思っています。小川記